

<div>教育目標</div> <p>自主・自立・貢献 ～志を持った学びの実現～ 「確かな学力を身に付け、将来展望を持ち、地域と社会に貢献できる、志ある生徒の育成」</p>	
年度末の最終評価	
評価	<div>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</div> <p>令和6年度文部科学省指定「よりよい生き方を実践する力を育む道德教育の推進事業」、令和5・6年度京都市教育委員会指定「しなやかな道德」2年目を終え、令和6年度は深草中ブロック内小中連携を根幹とする教育目標の認識が進み、教職員や児童・生徒に昨年度より取り組んできたことの成果が得られた年度になり、昨年度に引き続きブロック内での目標を達成できたと感じている。次年度は学力向上の取組を具体的に示し、ブロック内連携して取り組んでいきたい。そのために来年度の取組を各担当の主任とも検討し、次年度へ向けて充実を図りたい。</p>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>素晴らしい取組だと思っています。現在取り組んでいることを充実させるため、不要なことを整理し、良いところを伸ばすばかりでは質が薄まると思いますので、煮詰めてから足していくようにしていけば良いかと思います。私たちで、力添えできることをいつでも声をかけてください。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和6年10月8日・10月29日	PTA 本部役員 学校運営協議員
最終評価	令和7年2月7日・2月27日	PTA 本部役員 学校運営協議員

(1)「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

<div>重点目標</div> <p>各教科において、新学習要領が目指す資質・能力を育む授業実践を行い、生徒が意欲的に取り組み、楽しく、深く考え、学びがいを感じられるような授業設計、展開を行う。</p>

具体的な取組

(1) まとまりのある知識・技術の定着のために【観点Ⅰ】

- ・ICTなどを活用し、具体例を示しながら、簡潔で分かりやすい説明と見やすい板書をする。
- ・個別の知識（一問一答のようなものでなく）を定着させることだけにとどまらず、個別の知識を複数活用して「「なるほどそういうことか」「そうなのかな」「そう考えればいいのか」と「概念としての知識」を獲得させるための揺さぶる発問・課題を用意する。
- ・言葉、図、記号、印などを用いた言語活動を（説明活動）の時間をできるだけ取り、全員に一定時間取り組ませ、交流や発表を行う場面を設定する。

(2) 思考・判断・表現の力を鍛えるために【観点Ⅱ】

- ・既習した知識・技能を活用し、考察、分析、解釈、課題発見、解決、創意工夫が進んでできるような課題・言語活動（文章、図、式、表、グラフ、プレゼンテーション作成、パフォーマンスと説明など）を教科会で話し合いながら準備をする。
- ・積極的にロイロノートなどICTを活用し、新しく知ったり、広く知ったり（交流・共有）、深く考えたり（検討相互評価）する手段として積極的に用いる。

(3) 主体的に学習に取り組む態度を育むために

- ・【観点Ⅰ】・【観点Ⅱ】で行う課題・言語活動に、しっかり考え、粘り強く取り組めたか、ねらいのために試行錯誤しながら取り組めたかを目視や記述（レポートやICT活用）から見取る。
- ・まじめに聞いているか、正確に視写しているか、提出したかが主な評価の要素にならないように評価の材料や提示内容の工夫や蓄積をする。
- ・単元などの単位で振り返りを促す問いかけなどを記述させ、その内容を見取るようにする。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・学習確認プログラム及び全国学力調査の結果分析
- ・生徒、保護者及び教職員の教育評価アンケート結果

中間評価

各種指標結果

- ・新着任教職員と今まで在籍している教職員とが今年度も刺激をしあって良好な状態で授業が進められ、子どもたちも良好な状態で受け入れている。教職員の懇談における助言なども良好な対応が見られる。
- ・全国学力調査では全国・京都府平均を概ね達成している。
- ・学校評価アンケート結果（肯定的評価）

基本的な学力が身についている。	生徒	84%	保護者	73%
授業の中で満足感や達成感を持っている。	生徒	76%	保護者	68%
家庭学習の習慣が身についている。	生徒	54%	保護者	49%
読書の習慣が身についている。	生徒	48%	保護者	33%

分析（成果と課題）

- ・重点化授業を1学期は教科を中心に実施し、教科会で協議を行った。
- ・家庭学習の習慣や読書の習慣が定着していない現状があり、各教科の具体的な課題設定や本を読む大切に気づかせる必要がある。
- ・ブロック内小中連携を踏まえ、義務教育9年間の教育内容連携の意識ができています。また、今

評価	<p>年度は、小中合同道徳研究発表会に向けて学期ごとの小中授業交流など連携が進んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携に加え、昨年度同様深草幼稚園とも連携がさらに進んでいる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員の人材育成を主とした OJT の充実を進めると共に、校外での研修などに進んで参加できるような環境づくりを目指す。 ・各授業での ICT の有効活用やデジタルドリル有効的な活用を図り、子どもたちが各自のペースで学習を進めていけるように、使用頻度の改善を進める。 ・本を読む大切さを学校司書と連携し、図書委員会との取組を進める。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習確認プログラムの結果分析 ・生徒、保護者及び教職員の学校評価アンケート結果
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック内幼小中連携の取組や方向性はかなり注目している。また、学校から協力してほしいことがあれば、申し出てほしい。 ・家庭学習は、学校だけでなく家庭でも働きかける必要があると思うので、心掛けていきたい。 ・これからも授業参観や行事の参観などを通して、子どもたちの活躍している姿を見守っていききたい。

最終評価

<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div>				
・学校評価アンケート結果（肯定的評価）				
基本的な学力が身についている。		生徒	83%	保護者 75%
授業の中で満足感や達成感を持っている。		生徒	81%	保護者 72%
家庭学習の習慣が身についている。		生徒	65%	保護者 57%
評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <div>・アンケートの結果からも、日々の授業の工夫や効果的な課題の提示などで、少しずつではあるが前回のよりも成果が出てきている。しかし、さらなる定着を図るためには、家庭学習が必要である。I C T活用を含め生徒たちが家庭学習を主体的に進められるような教材提供等が課題である。</div>			
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <div>教員がさらなる授業力向上のため教科会や研修会などを行い、授業内で子どもたちに思考を促す発問、課題提供する。また、I C Tを積極的に活用し、家庭学習を定着させるための教材研究を行い、提供できるようにしていく。</div>			
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <div>少しではあるが結果が前回は上回っている。少しでも良いので伸びて行くのが重要であり、方向は良いと思います。また、家庭学習が重要であることも感じています。また、家庭での生徒へのはたらきかけを呼びかけようと思っています。</div>			

(2)「豊かな心」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら考え判断し行動でき、さらになかまと協働できる自立力の育成

<ul style="list-style-type: none"> ・人間力と集団力の育成 ・道徳教育の充実と更なる推進
<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・日常において「させる」から「支える」生徒指導の充実をはかる。 ・子ども同士がともに正しいことを確認し合い、高まりあえる集団づくりを目指す。 ・「あいさつをする」「返事をする」「時間を守る」を常に意識する集団を育成する。 ・「ありがとう」（感謝の気持ちを伝える言葉）が素直に言え、互いに感謝し合える集団を育成する。 ・「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心のこもった指導」を常に心掛け、一人ひとりの子どもを徹底的に大切にするとともに、課題や問題に対し、その背景を的確に捉え、理解し適切な指導支援を心掛ける。 ・生徒会活動で生徒が自ら考える場面を多く取入れながら活性化を図り、「支える」意識を常に持った指導を心掛ける。 ・「いじめ」は絶対にゆるさないという意識、SNSをはじめインターネットを介した誹謗中傷は人権侵害であり、命を奪うこともあることを認識させる。 ・地域の行事に積極的に参加することで、人のために役立つことや多様な人々と共生することの大切さを実感させる。また、持続可能な社会に向けた様々な課題解決を目指すなど、主体的に参画する意識と行動力を育む。 ・道徳科では、昨年度より「しなやかな道徳」の指定を受け、さらに今年度から「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」の研究指定も受け、2小学校とともに取り組みながら心を育てるような授業となるように教材やワークシートの工夫やその見取りの検討と充実を図る。
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート結果 ・SNSに関わる問題行動内容と件数 ・生徒、保護者および教職員の学校評価アンケートの結果

中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート結果から緊急性のある重大な案件は、現時点ではない。ただし、コミュニケーション不足が原因となる生徒間トラブルは少なくない。 ・SNSに関するトラブルは、4件である。（令和6年度9月まで） ・学校評価アンケート結果より、 「学校での授業や生活を通して、「成長した」と感じることもある」 生徒：88％ 保護者：88％ 教職員：100％ 「他人を思いやり、親切にしている。」 生徒：94％ 保護者：96％ 教職員：94％
<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が安全かつ安心して学校生活が送れ、行事などを通して、自己肯定感や自己有用感がまし てきている。 ・保護者も学校の思いをご理解いただき、信頼関係を持ってくれている。 ・いじめやSNSに関するトラブルが依然として存在していることも今後の課題である。
<div>分析を踏まえた取組の改善</div>

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が持つ悩みや困りを教職員に常に安心して相談できる環境づくりの構築を図る。 ・教職員が常にアンテナをはり、生徒の悩みや困りを早期発見し、素早く正確かつ丁寧に対処できる学校組織の構築を図る。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携を取りながら家庭内でコミュニケーションがとれるはたらきかけをしていく。 ・昨年度から研究指定を受けている「しなやかな道徳」、さらに今年度は文部科学省から「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」の研究指定を受け、道徳教育を本校の課題とリンクした実践をブロック内小中合同でさらに進めていく。
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート結果 ・ク라마ネの結果 ・生徒、保護者および教職員の教育評価アンケートの結果 ・道徳授業での生徒の取組の様子や振り返りとアンケートの結果
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事に子どもたちが参加していることに感謝している。また、今年度も積極的な参加を期待し、共に取り組むことを楽しみにしている。 ・学校行事などの参観した際に、一生懸命学習などに取り組んでいる子どもたちの姿に感動し、学校に協力をしていきたいと思っている。

最終評価

評価	<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・最終のいじめアンケート結果からも緊急性のある重大な案件は、現時点ではない。ただし、互いを理解しようとする気持ちが不足していることが原因となる、生徒間でトラブルは少なくない。 ・クラスマネジメントの結果から学級認知スコアはどの領域も基準を超えていている。 ・学校評価アンケートより <ul style="list-style-type: none"> 「学校での授業や生活を通して、「成長した」と感じることもある」 生徒：91% 保護者：87% 教職員：93% 「他人を思いやり、親切にしている。」 生徒：96% 保護者：97% 教職員：100%
	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <p>全教職員の寄り添った丁寧な対応により、子どもたちと教職員の関係は、良好な状態を保っていると思われる。また、子ども同士の関係も概ね良好な状態を保っていると思われる。道徳ではフィールドバックを大切にし、課題があれば学年や学校全体で共有・検討し、子どもたちへ効果が出るように進めることができた。次年度に向けては、子どもたちが自ら考えて行動する場面をさらに設定する工夫を行っていく必要がある。</p>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <p>生徒の今の状態に教職員が満足することなく、子どもたちをさらに伸ばしていくためにはどのような取組が必要なのかを全教職員が常に意識をし、生徒が自立できる場面を設定してく。また、今後も生徒や保護者への対応については、寄り添い、丁寧に接することを心がけていく。</p>

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>学校評価アンケートでどちらも 90%以上が「よく当てはまる」の結果になっていることは素晴らしいことである。いじめなどは小さい時にこそ全力で指導していくべきだと思います。大事になってからでは遅いので、今後も生徒に寄り添って、丁寧な指導をしていただきたい。</p>
---------	--

(3)「健やかな体」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣を確立し自らの健康課題について考え解決し、心とからだを管理する力の育成 ・ 危険を予測し、その回避や対応が適切にできる人間の育成
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ほけんだより」を通じて、日常的生活習慣の基礎となる食事、睡眠、衛生、免疫について分かりやすい啓発を行う。また、歯、耳、鼻等の検診の目的を伝え、診察・治療の啓発を行う。 ・ 昨年度の学校保健委員会で、う歯の治癒率が低いとの指摘があったので、特に今年度はう歯について重点的に取り組んでいく。 ・ 基本的生活習慣（「早寝・早起き・朝ご飯」）を自ら実践できる力を育むために生徒会の美化保健委員会と取り組むと共に保護者への協力を求めるために「学校だより」や「すぐー」等の配信も利用しながら、積極的にはたらきかける。 ・ 性に関する基本的な知識を正しく理解させ、性に関する諸問題に対して、適切な判断、行動ができるように指導を充実する。 ・ SNS やインターネットの動画サイトなど不特定多数の情報に対する課題とその対応について、係が中心となって考え、学校全体での共通理解を常に図る。 ・ 薬物、飲酒、喫煙の有害性、危険性についての正しい知識を身に付けさせ、その判断力が生涯にわたり継続するように保健体育科、道徳科の授業や非行防止教室や薬物乱用防止教室を実施する。 ・ 生徒が学校や地域において、危機予測能力、危機回避能力、行動力を育成し、日常生活に潜む様々な危機から自らを守るための知識と判断力を身に付けることができるように安全教育の計画的と取組を推進していく。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「新体力テスト」の実施結果の分析 ・ う歯の治癒のようす ・ 生徒、保護者及び教職員の学校評価アンケート結果

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新体力テスト結果 <ul style="list-style-type: none"> 1 年生男子は、概ね全市平均を上回っていて、特に長座体前屈は 5P 弱、立ち幅跳びは 7P 強上回っているが、シャトルランが 4P 下回っている。 1 年生女子は、概ね全市平均を上回っていて、特に長座体前屈は 3P、ボール投げ 2P 弱上回っているが、シャトルランが 5P 弱下回っている。 2 年生男子は、概ね全市平均を上回っていて、特にシャトルランが 6P、ボール投げが 4P 上回っているが、長座体前屈は 3P 弱、反復横とびが 1P 強下回っている。
--

	<p>2年生女子は、概ね全市平均で、特に握力 1P 強上回っているが、長座体前屈は 4P 弱、シャトルラン 5P 強、立ち幅跳び 3P 弱下回っている。</p> <p>3年生男子は、概ね全市平均を上回っていて、特に長座体前屈 3P 弱、立ち幅跳び 4P 弱、ボール投げ 3P 上回っているが、シャトルランが 2P 弱下回っている。</p> <p>3年生女子は、概ね全市平均を上回っていて、立ち幅跳びは 4P、ボール投げは 3P 上回っているがシャトルランが 2P 弱下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度歯科検診の結果う歯所有率は 33% で、そのうち現時点でのう歯処置率は 39% である。 ・基本的生活習慣員については今後取り組む必要が見られる。 <p>前期 教育評価アンケート</p> <p>早寝・早起き・朝食など規則正しい生活を送っている 生徒：69% 保護者：67% 教職員：82%</p>
評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体としては、長座体前屈とシャトルランの数値が全市平均より下回っている傾向がある。柔軟性と持久力の身体的能力不足が課題である。昨年度数値の低かった反復横とびについては、改善傾向が見られる。 ・う歯のまま放置しているのはう歯所有者のうち 61% になる。 ・規則正しい生活を送れていない 30% の生徒への取組が課題である。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体として、ランニングやストレッチを多く取入れ、持久力や柔軟性の向上を図る取組を進めていく。 ・う歯の処置率や規則正しい生活が送れていない生徒については、「ほけんしつだより」などで再度ご家庭での協力をいただけるようにはたらきかけを続けていく。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・う歯の処置率の啓発を行うと共に進行状況の確認。 ・学校評価アンケートの結果
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>運動がきる施設やグラウンドが近隣になく、学校での活動や部活動に期待している。また、子どもたちと活動する機会があれば、声をかけていただければ協力していきたい。</p>

最終評価

	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・う歯の処置率は、43% で前回より 5% 進んでいる。 ・学校評価アンケート結果より 「早寝・早起き・朝食など規則正しい生活を送っている。」 生徒 76% 保護者 66% 教職員 77%
自己	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・う歯の処置率については、懇談会や保健室だよりなどの啓発活動により処置率が向上している。

評価	<p>生活習慣については、生徒と保護者、教職員の間に認識のずれがあるが改善が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回より全体としての生活を改善している生徒が増えているが、スマートフォンなどを見ている時間が長いために、夜遅くに就寝をしている子どもたちが多いようである。 <p>今後も健康な歯を保つことと十分な睡眠を取ることの大切さを生徒や保護者に継続的に伝えていく必要がある。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・う歯の処置率を上げるために、小中間で連携し、継続して保健室だよりや保健体育の授業などで子どもたちに指導し、懇談会などで、保護者に治療を促していく。 ・十分な睡眠が学力の向上、身体の成長、免疫力の向上、精神の安定に必要なものであることを生徒たちに伝える機会を設け、保護者にも協力をしていただく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>飲食業なので「朝食」の文字は気になります。</p> <p>「朝食」…頭と身体に良い食事（空腹では記憶力、判断力が鈍る）</p> <p>「昼食」…健康に良い食事</p> <p>「夕食」…心に良い食事（プラスもマイナスも家族との団らんの場合）であると思っています。</p> <p>特に、う歯の治療については、私ども保護者同士で意識ができる声かけをしていきたいです。</p>

（４）学校独自の取組

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会による評価アンケート項目の提案 ・深草中ブロック幼小中連携の確立
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価アンケートの項目の検討をしていただく。 ・評価アンケートの分析後、意見交換など、本校教育活動の評価や支援などもいただき、今後の教育活動において改善を図る。 ・深草中ブロックの合同会議で、よりよい幼小中の連携を構築していく。 ・深草中ブロックでの合同研修会を実施し、幼小中間の課題を共有し、取組を推進する。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価アンケートの結果（質問項目は年度ごとに検討し、更新していく。） ・合同研修会の振り返りでの成果と課題の整理と今後の進め方の検討。

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート（学校運営協議会で話題になった項目） <p>地域の行事に意欲的に参加している。 生徒：68％ 保護者：42％</p> <p>将来の夢や目標を持っている。 生徒：68％ 保護者：63％</p> ・ブロック内幼小中による連携は、全教職員に浸透してきている。また、幼中との連携も今年度では教職員だけでなく、子どもたちが授業の中で交流する取組も行われている。

評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりは地域の行事が多数行われるようになり参加する機会が増えているが将来的な行事の継続を考えると、もっと浸透させ、参加を促したい。また、将来に夢については中学生にしては思ったより高い数値が出ているが今現在抱いてる夢は否定をするのではなく支えていく方が良い。 ・小中連携では今年度は合同で文部科学省・京都市教育委員会指定の道徳研究発表に向けて、夏季の合同研修会や学期ごとの授業参観により昨年度より充実した連携が進んでいる。 ・昨年度より進めている幼中連携教職員と共に子どもたちが授業の中で交流する取組等も行われ、充実した連携が進んでいる。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教育アンケートの結果を分析し、改善課題を解決する取組の実施 ・令和7年度に向けて、幼小中の連携課題を教職員へ向けて具体的な発信を実施する。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの結果（後期） ・小中合同研修会での成果と課題の整理と今後の進め方の検討
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが地域の行事に参加できるように地域でも呼びかけるが、学校でもポスターなどの掲示なども協力をいただけるとありがたい。 ・幼小中の連携は、保護者も地域の者も期待しているため今後も積極的な取組を進めていって欲しい。

最終評価

評価	<div>（中間評価時に設定した）各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート結果より 地域の行事に意欲的に参加している。 生徒：53% 保護者：42% 将来の夢や目標を持っている。 生徒：72% 保護者：61% ・今年度は、道徳の研究発表に向けて夏季に小中合同で研修会をすすめ、11月の報告発表会を行うことができた。
	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事への参加する意識が生徒たちは意欲的ではないようである。 ・学習を進めていく中で様々な体験をすることで、自分の将来のことに考えることができるようになってきているようである。しかし、その実現のためにどのようなことが必要なのか自ら考え、行動できるようにすることが必要である。 ・小中3校で、昨年度に引き続き連携を取り、道徳科を中心に取り組むことで、9年間の生徒達をどのように育てていくか方向性を示すことができてきた。来年度は、他教科での連携を進め、学力向上に向けて引き続き取り組む必要がある。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への参加に関して、生徒たちがその意義や楽しさを実感できる取組が必要である。 ・学習を通じて将来のことを考える力を育むため、職場体験や地域の専門家との交流を通じて、学ぶ機会を増やし、具体的な将来像を描けるような取組が必要である。 ・複数の教科を横断するテーマに取り組み、子どもたちの興味や関心を引き出し、学びの深まりを促すようにしていく必要がある。

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>中学校への地域からの行事の参加を依頼していいのかが分からない。中学生に行事の参加を依頼する際の参加できるかできないかの線引きが分ければ参加の要望は増えると思います。地域としても中学生にはぜひ行事に参加してほしいので、来年度は積極的に中学校に依頼する機会があればいいと思っています。また、学校で協力してほしいことがあれば、ぜひお声かけをしてください。</p>
---------	---

(5) 教職員の働き方改革について

<div>重点目標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の分散と効率化 ・風通しの良い職場環境の構築 ・ワークライフバランスを意識した、教職員の勤務状態の改善する取組
<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の精選と分散を進め、経験の浅い教職員にも組織の中心となる分掌を任せ、効率化を図る。 ・職員室内の整理整頓を行い、環境を整え、効率よくさらには気持ちよく勤務ができる場にしていく。 ・悩みや困っていることが気軽に相談できる職場にしていく。 ・保護者等への配布物や連絡のできる限りのデジタル化を進め、効率を図る。 ・職員会議や研修会のペーパーレス化を行い、デジタル化を進め、効率化を図る。 ・職員会議や研修会や打ち合わせなどを勤務時間内で行うことを意識する。 ・今年度も採点ソフトを使用することを進めることにより、短時間でできることは積極的に取り入れていく。 ・「18時留守電」を毎日とする。 ・19時30分までにはセットを毎日の目標とする。
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の超過勤務の変化 ・授業等でのICT活用の実態 ・教職員アンケートの結果

中間評価

評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・会議資料のデジタル化を積極的に行うことで超過勤務の改善につながっている。 ・今年度導入された「すぐーる」（今年度は登録率100%達成）を活用し、保護者への案内など効率よく配信できている。また、学校評価アンケートなども活用し、効率よく回答を集計し、分析ができている。 ・部活動が超過勤務の要因の1つになっていることは否めない。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・18時留守番電話設定 ・平日の19時30分退勤および毎週木曜日に早帰り日を設定し、その徹底を図る。 ・業務の精選と分散化を積極的に行う。
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div>

	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動ガイドラインに沿って活動し、休日のリフレッシュに努めているか。 ・木曜日の19時早帰り日を意識し、実行しているか。 ・来年度に向けて、業務の精選と分散化について進められたか。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>日々子どもたち向き合っている教職員のみなさんには感謝をしています。教員を取り巻く環境が複雑で時間を要することを理解しているつもりです。その上で働き方改革が進んでいるのかが気になっています。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動に関しては、部活動ガイドラインを遵守し、休日はリフレッシュに努めている。 ・目標日の19時早帰り日については、少しずつではあるが意識できるようになってきた。 ・組織表を見直していくことにより業務のスリム化と分散の準備が進んでいる。
評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導員等と協力することにより、休日の部活動については軽減され、リフレッシュができる機会が増えてきたようである。 ・週に1度の早期退勤日の教職員の意識は高くなっている。しかし、他の日は退勤時間が遅い教職員がいるようであるので、早期退勤をさらに促す必要がある。 ・組織表を見直すことで、業務の分散を図る準備ができてきている。来年度に向けて見直した組織表を基に業務の分散化を図る必要がある。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>行事の精選を行い、業務の分散を進めることで一部の教職員に業務が集中しないように見直した組織づくりをしていく必要がある。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>令和6年10月27日の学校運営協議会にて、理事へリーフレットの配布リーフレット活用シナリオを参考に会を運営し、理事からは「学校での働き方改革の意義や必要性は理解している。と肯定的な意見が多かった。</p> <p>日々生徒のために熱心に指導いただき、ありがとうございます。中学生を育むためにはまず教職員の皆様が心身共に元気であることが絶対条件である。地域として、できることがあれば言うて欲しい。できる限り力になりたいと思っています。</p>

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

<p>重点目標</p> <p>各教科等の授業・学活・総合的な学習の時間・特別活動や全ての学校生活の場面で生徒同士や教職員と生徒の関わりをより一層豊かなものにし、相互に尊重し合うことを基盤にしたいじめの未然防止・早期発見・積極的認知を行い、正確な初期対応、解決と丁寧な事後観察を確実に実施できる学校体制と教職員の体制を構築していく。</p>
<p>具体的な取組</p> <p>「学校いじめ防止基本方針」に同じ</p>

〔取組結果を検証する〕各種指標

- ① 全教職員が「学校いじめ防止基本方針」の内容を理解し、組織的に丁寧な対応に努める。
- ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している。
- ③ いじめに係わる既存の「学校評価：生徒アンケート項目」を活用する。
- ④ 生徒・保護者の訴え（評価アンケート結果含む）や相談内容を共有している。
- ⑤ 保護者や学校運営協議会などに、学校いじめの防止基本方針や学校の取組について説明・周知している。

中間評価

各種指標結果

- ① 年度当初の職員会議で全職員に「学校いじめ防止基本方針」の内容周知を行った。
- ② 学校だよりで全校生徒に対して紹介した。
- ③ 学校評価アンケート
「学校の先生たちには、相談しやすいですか。」の項目に関して、「あてはまる 89%」「あてはまらない 10%であった」
- ④ 毎月 IFS 委員会（いじめ、不登校、総合育成支援）で情報交換を行い、学年会等で相談内容の共有を図った。
- ⑤ 学校運営協議会（10 月）にて説明・周知をした。

評価

分析（成果と課題）

- ・教職員の組織的対応への重要性や理解が深まっている。
- ・相談しにくい生徒がいることを認識し、関わり方の改善が必要である。
- ・学校運営協議会に、「学校いじめ防止基本方針」や「学校の取組」について丁寧に説明し、周知を図っている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・「学校いじめ防止基本方針」を教職員に周知徹底を図る。
- ・教職員と生徒及び家庭がさらに相談しやすい関係構築を図る。

〔最終評価に向けた〕取組の改善を検証する各種指標

- ・学校評価アンケートの結果

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・LINE や Instagram など SNS などを利用したネット上でのトラブルが増加傾向にある。また、いじめの原因になっている事例も少なくない。近年所有率が高くなっているスマートフォンや PC で SNS を利用する際の指導は学校では限界があり、保護者の協力が不可欠である。また、スマートフォンや PC の使用については、家庭がしっかりとした意識を持ち、毅然とした姿勢をもたないと根本的な問題解決にならないことを自覚し、我々が持たなければならない。
- ・学校は、日頃から生徒の小さな変化を見逃さず、早期発見、対応をいただいているようである。今後も学校組織で教職員一丸となって取り組んで欲しい。

最終評価

〔中間評価時に設定した〕各種指標結果

- ・学校評価アンケート

「学校の先生たちには、相談しやすいですか。」の項目に関して、「あてはまる 89%」「あてはまら

ない11%」であった。

評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・多くの生徒たちは周りの仲間を大切に、安心して生活を送ることができているようである。
- ・生徒たちが、日頃の教師の関わりで困っていることや不安に思っていることを常に受け止めるために日々寄り添いながら丁寧に見守っていく必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

すべての子どもたちが安心して学校生活を送ることができるように、引き続き生徒たちに寄り添い丁寧に接することを大切にすることを常に確認しながら指導に当たる。また、常日頃から生徒たちの些細な変化も見逃さない姿勢を持ち続けることを大切である。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

いじめ等は多種多様で正解がないので、多くの情報を正確に集めれば、良い方向へと向かっていくと思います。地域でも引き続き、生徒達を見守っていきます。また、力になってほしいことがあればいつでも言ってください。